

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	終末期高齢者の在宅での看取り支援に関する研究 —静岡県における自宅死亡に関する実態—				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	植田 春美
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	山田 紋子
		所属・職名	看護学部・教授	氏名	林 みよ子
	発表者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	植田 春美

講演題目	終末期高齢者の在宅での看取り支援に関する研究 —静岡県における自宅死亡に関する実態—
研究の目的、成果及び今後の展望	<p><b>【研究の目的】</b> 我が国では自宅での最期を希望する高齢者の割合に比べ、自宅での死亡が少ない現状がある。この現状を改善するために、各地域で看取りの実態を把握した上で施策を検討し展開することが必要となっている。そこで、本県における自宅死亡に関する分析を行い、本県および本県の市町や地域における自宅死亡の実態や特徴を明らかにし、在宅での看取りを推進するための課題について示唆を得ることを目的とした。</p> <p><b>【成果及び今後の展開】</b> 2021年人口動態統計によると、静岡県の死亡数は43,194人、このうち自宅での死亡は7,559人で全死亡の17.5%（全国17.2%）、65歳以上のみの自宅死は16.7%（全国16.1%）であり、いずれも全国値とほぼ同等の水準だった。次に、2010年から2021年までの全年齢の自宅死亡割合の推移をみると、2010年の13.8%（全国12.6%）から2019年の14.4%（全国13.6%）とほぼ横ばいで経過した後、2020年16.4%（全国15.7%）、2021年17.5%（全国17.2%）と増加傾向となっており、全国と同様の推移を示していた。2020年からの自宅死亡割合の増加は、先行研究においてコロナ感染による死亡者増が関与していると報告されており、本県においてもその関与があることが推察された。また、2021年の65歳以上のみのデータでは、老人ホーム死は13.8%（全国10.9%）、介護医療院・介護老人保健施設死は8.0%（全国3.9%）、病院死は59.3%（全国66.3%）となっており、本県は全国に比べ病院以外の施設での看取りが多いと言える。次に2次保健医療圏別に2021年の全年齢自宅死亡割合を比較すると、最大21.7%（熱海圏域）、最小は14.4%（賀茂圏域、富士圏域）、2010年との比較では、静岡圏域が最大の8.1%の増、賀茂圏域は唯一減少し1.1%減と地域での違いがみえた。さらに市町については人口規模の小さい市町データの変動が大きいため、2019年から2021年の3年間の全年齢死亡場所データの合算値を算出し比較した。算出した自宅死亡割合の最小は小山町（7.3%）、最大は牧之原市（23.3%）と市町間でのばらつきが認められた。高齢化率、人口、人口密度と市町別の自宅死亡割合に相関は認められなかったが、老人ホーム、介護医療院・介護老人保健施設での死亡を合わせて比較することで、市町による死亡場所の異なる様相が見いだされた。</p> <p>以上のことから、在宅での看取りの推進のためには、地域、市町ごとに自宅死亡割合に及ぼす要因を見出す必要があると考える。また、今後、老人ホーム等の病院以外での施設死亡が増加することが在宅での看取りにどう影響を与えていくのか、県内の各地域、市町ごとのデータの蓄積、分析を継続する。さらに実際に終末期高齢者が病院から退院し、どのように在宅での看取りを迎えることができているのかを明らかにし、必要な具体的支援を検討していく予定である。</p>